



学校だより

みつめ みがきあい みらいをひらく 南神の子

南神大寺小学校
5 月 号
令和5年4月28日



みなかん HP

かかわりを温かく支援する

校長 岩田 和也

初夏の風が清々しく、明るい日差しの中新たな月を迎えます。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。また、先日は、授業参観・懇談会にご参会いただき重ねてお礼を申し上げます。

始業式から1か月が過ぎようとしています。学校では、子どもが自然体でいられる姿を多く目にすることができるようになってきました。感染症対策としての咳エチケットやこまめな手洗いについての取組は今までと同じではありますが、4月からマスクの着脱がそれぞれの判断によってなされるようになりました。そのためか、目に子どもたちには、気兼ねなく会話を楽しむ声や笑顔が多くなったように思われます。感染症の落ち着きとともにこれからまた少しずつ子ども同士のかかわりが増えていくことに期待を寄せているところです。従来のかかわりが戻りつつある今、みんなで取り組むことのよさの実感やかかわりをつなぐ大人のかかわりが大切になると考えています。

先日、ある教室を訪れたところ、子どもたちの学習の様子に、こんなやりとりが見られました。一人の子が発言すると、「えっ、この言葉ってどんな意味なの」…「ちょっと待って、本当にこの方法でいいの」…と、学級全体が一度立ち止まり、考えを見直す必要が生まれる瞬間でした。その瞬間、子どもたちに葛藤や心の揺れ動きが起きたのです。対話のなかで意見や考えにずれが生じたとき、「えっ、どうなんだろう」と揺らぎが生じ、子どもたちの学びは促進されます。この学級では、その後、友達の発言に対して、「それもいい考えだね」と学級全体が違った視点や発想をもっている友達を認め、称える温かい雰囲気になりました。多様な考えや人の存在への尊重は、学校で子どもたちが共に学ぶことの価値であり、こうした姿に現れるのだと嬉しく感じました。

教室では、そうした一人一人のよさや相手を尊重する子どもの声を大事にしています。私たちは子どもの声を引き出し、「褒める、認める」といったかかわりで、子どもたちを支援します。その子ならではの、かかわりのよさ、成長を褒め、認め、子どもの成長思考を育てます。一方で、かかわりが多くなれば、行き違いが生まれ、問題が多くなることもあります。それと同時に、友達や先生とのこれまでつながりが強かった分、悲しみが深くなることもあります。その子にとって、友達が、先生が、学校という存在がそれほど大きかったのかと改めて思うことがあります。そうしたときも私たちは、親身になり子どもの声を第一に一人一人と話す時間をつくって、かかわりをつなぎ、つながり直しをします。日々起こる出来事一つ一つを共に乗り越えていく中で、学級は一つになっていき、一人一人も育っていきます。また学校を訪れた際には、教室を覗いていただけたらと思います。学級が育ち、子どもが育つかかわりを自にして、褒め、認めていただければ有難いです。

いつのときも出発点は子どもの声です。5月には、学校において「いじめ防止アンケート」を行い、子ども面談の機会と併せて、子ども一人一人の声を受け止めてまいります。間もなく連休を迎えます。ご家庭におかれましても、少しゆっくりとしたご家庭での時間の中で、お子様の声に耳を傾け、よさを認め、ともに喜ぶ時間をつくっていただければ幸いです。引き続き保護者の皆様のあたたかいご支援をどうぞ宜しくお願い致します。